夕刊 磐城新聞
四月十六日發行
（日曜日祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五五六五番

天氣豫報（小名濱測候所發表）
今晩は西の風晴
明日は南の風晴後薄曇

閑談夜話

平華生

○死ねない男

明治某年十二月十七日の夜細雨がシト〳〵降つて何となく陰氣な日であつた。N驛の跨橋下の助役詰所ではストーブをカン〳〵焚いて澁茶を吸りながらこんな晩はよくマグロ（轢死人のこと）がとれるのだが、眞平御免だねなどと云つてそれからそれと徹夜番の眠氣覺ましに四方山の話に漫談を交して居た。すると午前二時頃警手のR君が突如キヤツと云つて立ち上つた。どうしたんだと云ふと外から化物が覗いて居ると云ふので、皆んなが驚いてすかして見ると一つ目の顔中眞背な男が硝子戸の外に動いて居る。氣を落付けてよく見ると血だらけの手を合せて助けてくれ助けてくれの姿態を示して居るのである。どうしたんだとよく聞いて見ると、どうしても死なねばならぬ事情があつて、その頃轢死の本場として有名であつた今の鶯谷附近の御院殿下と云ふ處で下りの汽車の來るのを目覚けてレールを枕に寢て居たが、汽車はスーツと鄰りの線路を通り拔けて行つて終つた。オヤ〳〵と思つて居る内に今度は上りの汽車がやつて來たので、急いで線路の中で目をつむつて南無阿彌陀佛を唱へて居るとゴーツと云つたきりで段々音が遠ざかる。おかしいなと目を開いて見ると汽車はもう見えない。身體をさすつて見ても何ともない。こりやへんと稍暫く線路脇に隱れて待つて居る内に又上りがやつて來た。此邊は復々線のため線路が澤山あつて、汽車がどの線を來るのだか判らぬため失敗ずるのだ。今度こそはと汽車の近付くのを待つて無我夢中で飛び込んだ。處が機關車の角か何かにポンと跳ね返されこんな傷を負ひました。三度も自殺を圖て死ねないと云ふのはよく〳〵自分にはまだ死運がないのだ。どうしたらよいかと線路脇に座り込んでじいつと考へ居てりましたが、寒さは身に泌みて來るし頭はづきん〳〵痛んで何とも仕様がないので、この燈りを便りに救を求めてやつて來たと云ふ話。よく調べて見ると右前頭部が打ち切られて骨が見ゆその皮がだらりと右の目の上に垂れ下つて居た爲、左眼一つしか見えないのであつた（此の項續く）

贈橋本磐中敎諭歸隱

珠雲 小野紡平

化育英才幾萬千
業成身退德聲全
晴耕雨讀友風月
垂釣時遊滌滌遊

その日〳〵

この日命日の人△

4月17日
△北畠親房（正平九）
△德川家康（元和二）
△杉田玄白（文化一四）

4月18日
△紀貫之古今和歌集を選す（寛平九）
陪審法公布（大正一二）
△陸海軍大臣任用資格官制改正（昭和一一）

○ 圓周の如何なる點より

も中心への道あり　リユッケルト

花の土手

岩丈

○電線に落暉がやゝ花の土手
○蜜蜂の巣箱並べし花菜畑
○たくましき除隊兵士の田打かな
○醫王寺の森をはるかや桃の花

次回讀物豫告 隱密小天狗

中川雨之助氏作
近藤鐵氏畫

梗概（中）

圭之助は憤慨のあまり、駒路との婚約を破棄し。以後、自暴自棄の生活に陷る。しかし俊作は、斯くの如く幾多の苦難、拙ないながら、遂に正雪一味が深夜道灌山に會合し、いよ〳〵謀叛の手配を定むることを探知し、今一息で動かぬ證據を握らうとする七增場に至て、不幸にも正雪の替眼に看破され、飛龍飛劍と名づくる正雪秘法の鐵劍のために傷き倒れる。

俊作の一命は、まさに風前の燈火、しかもこの時、彼を救つたのが、お蝶と呼ぶ熱情の女であつた。お蝶は具足師惣五郎の妹で、正雪の所有する權場の寮の寮番であつた。

彼女は、淺草並茶屋の茶屋女に上つで、俠氣に滿ちた江戸前の女であつたが、いつか、俊作を戀してゐた。けれど、彼女の折角の苦心も水泡に歸し、俊作は、正雪の爲に捕えられ、俊作に代つて、伊豆守屋敷へ訴人しやうとしたお蝶は、途中忠彌のために斬られ、俊作は愛人の名を追呼しながら、絶命した。

講談 悲戀 髑髏組（どくろぐみ）

(166) 林杢兵衛作 金子士郎畫

悲戀の地獄道（四）

刑部が、最後に殘す唯一の願望。それは自分が犯した罪のつぐなひとして、お咲の身の安全を計るのみだつた。

だが今は、それすらも許されない。一死以つて、茂十と源七の江戸ッ兒の仁俠をすがらうか、それとも血路を求めて一時逃げのびるか。その何れかを選ぶのに刑部は些からず躊躇した。

（若し此處で多數の捕手を殺めさへせば、幾代の恩人椛引主膳正に申譯なし。それは出來ない、うむ、さうだ、話に聞けば茂十も源七も、十手を預かれ、江戸ッ兒の氣風を生かす血も涙もある任俠漢、知らぬとは云ひながら、我子を殺めた自分が、いかに純情とは云へ、何んで幾代に此の顔が合されやう。死んで、死を以つて、茂十と源七の仁俠にすがらう）

遂に、刑部は悲壯な決意を固めた。

途端に繰り出す箱搦みが亂れた刑部の頭髮を掴んだ。小鬢の毛がプリ〳〵と拔けて、顔が不氣味に引き釣つて來る。

『うむ』うめきのうちに握り返した愛刀貞宗。

『小父ちやん、恐いよう』

お咲の恐怖の叫びを聞き流し、刑部が、矢庭に自身の腸腹へ

『あッ、駄目だ、殺しちやいけねえ』

茂十と源七が慌てゝ、左右から馳け寄つた、が、その時は既に遲かつた。

すかさず刑部が、直腸のあたり一抉りして、愛刀を手離すや、茂十と源七の兩細を確固と握つた

『お身達を、江戸つ兒と見込んで刑部が最後の頼みそれは外でもない、背中の幼女を、何卒南町奉行椛引主膳正のお屋敷まで』

『な、なんだと』

髑髏組の怪盜とのみ思つた刑部の口から、意外にも聞く奉行殿の名。彼等は等しく目を見張つた。

『そ、其處に幾代と云ふ、む、娘が居る。その娘に、これなる子供を刑部が一生の願ひだ……育てゝ貰い。そ、それさへ願はれゝば、お手放しが願ひたい。幾多の罪を重ねた島宗刑部も、最早こ此世に思ひ置くことは更になし』

『やれ、ぢやお前さんは、髑髏組の一味ぢやなかつたのか』

『いや、まぎれもない、髑髏組の一味だが、何事も因果の廻る奇しき小事だ。のゝ、思ひ返せば、みの毛もよだつ一年の流轉拙者にとつてはすべてが悲しい戀の地獄道だつた』

云ひ終るや、刑部が、がつくりと首を垂れんとした

『退けつ、刑部殿は何れにある、南町奉行椛引主膳正だ』

馬上から、奉行の一聲。捕方は雪崩をうつて道を開いた。

『おゝ刑部殿、はやまつたなつ』

『刑部様』

主膳正と共に、忽籠で飛んで來た幾代が、刑部のしん邊に寄り添つて、限りのない悲嘆慟哭。

腹部からの出血たびただしく、心臓の鼓動も次第に弱り行く刑部の耳に、幾代の眞心が通じたものか、半眼をぱつちりと見開いて

『おゝ其の方は幾代拙者は其方に合せる顔がない。椛引屋敷において、當然腹割捌して詫びしなければならないのだが、氣に掛るのはこれなる孤兒お咲だ、其方に神田明神へ思案に餘つて捨てた我子を、これなるお咲の母親と諸共に、一刀兩斷にした罪の刑部……誠に勝手になるやうだが、何卒拙者の罪はゐろばしに行く末長く、可愛がつてやつてくれ、ただそれだけが頼みたかつたんだ』

店員を迎ふ
一、小店員（十六歳以上）
一、中店員（廿歳前後）
各二名を迎へます
仕着小遣持、追々昇給
休日毎月二回—第一第三日曜（委細照會又は本社へ）
東京市大森區馬込町二丁目一、〇二五
京染、白生地、呉服
蓮沼亘商店
電話大森六二七四番
（二十五歳より獨立又は經營保證）

男女學生服特賣
高島屋の洋服
新柄背廣
レンコート
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

夜間診療
胃腸性病
內科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平市南町電一〇七番）
（見習看護婦募集）

生徒募集 刺繡生徒
◎毎月入學（一日、十五日）
洋裁科 研究科 ミシン科 刺繡科
規則書進呈
平市田町 シンガー洋裁女學院
シンガーミシン（新品中古 現金月賦大販賣）
◎カタログ進呈
平市田町
シンガミシン會社支店

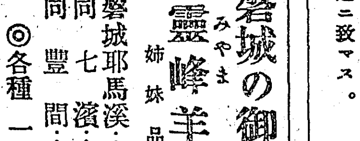
レストラン
サロン
食事 喫茶 酒場を兼ねた
平田町 電三二五

ヒマル凍魚
タヒ 甘鯛
エビ マナ鰹
白魚 帆立貝柱
冷カヅノコ ウニ貝燒
平三製氷會社 電話三八三番
四丁目 ト印魚問屋 電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

磐城の御みやげ品
名物 靈峰（みやま）羊羹（名産柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山（みやま）羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種 一本十錢
製造發賣元 小川郷驛前 平屋賣店

御料理
お花見には是非……
ときわ
電話二二六番

吸入用酸素
呼吸困難治療として早くおすゝめ下さい
流行感冒豫防に（マスク）各種あります
病氣豫知に（體溫器）各種あります
平市古鍛冶町一〇（縣社下）
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番



視力保全運動
視力異狀に早期檢眼明快な、視力能率增進、正確な眼鏡により視力を保全致しませう。
各眼科御用
眼鏡專門 玉屋眼鏡店
平市二丁目

銅鐵 機械
海軍工廠御用達
二大製鐵會社特約店
井尻三七郎商店
福島縣平市鍛冶町十一
電話五二二番
荷受場 平市鍛冶町廿三番地
倉庫 平市鍛冶町九番地
御買上品精々御安く納品致します
御拂下品は精々御高値に買受ます

製鐵原料問屋
中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
十二封度レール、トロ車輪付附屬
鐵工工具品、新品着荷致しました
東京製中古
九呎旋盤 15カ2分ノ1 九尺
八呎 同 11カ2分ノ1 九尺
六呎 同 11カ2分ノ1 六尺
バーチカルポンプ新品
ヒユカルポンプ新品
六呎木工旋盤 六呎
山岡發動機 四呎
中古新品
五馬力半 二吋モーター付
三馬力半 一吋半
右の通り新品中古共入荷致しました。
精々御用を乞ふ。

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 女師中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
電話九二番
入院隨時
院長 醫學士 金森[illegible]郎

地方漁業界に新光明

濫伐や不適切な施業を排して 魚附林造成案具体化

近年我國の沿岸漁業は比年疲弊に傾きつゝあるがこれが最大の原因は海岸森林の濫伐及び不適切極まる施業に基因することが頗る多い。よつて農林省では豫て魚附林の造成に關し全國各府縣に對し造林を必要とする土地の調査を命じてゐたがいよ〳〵昨十五日より三日間に亘り開催中の各府縣林務關係課長會議において調査資料の提出を求めた上全國に亘り廣汎な施設計畫を樹立することゝなつた魚附林の造成は漁族の回遊停滯を誘致し水產資源の培養となるのみならず、沿岸土砂流出を防止し他面漁村住民に必要な漁船漁具用材及び燃料材等の給源ともなり而も沿岸四十五里常に漁獲の豐凶によつて地方經濟界を支配さるゝ水產縣中殊に炭礦と共に之を最大主要の產業として居る本郡に在つては斯業の改善發達によつて惠まるる處極めて大なるものがある丈けに之が實現は地方水產界に一新紀元を畫するものと期待されてゐる

漁業組合へ補助金

郡下の漁業組合への補助金は左の如く決定・近く交附の筈

△植田町漁業共同組合千八百三十三圓(共同引船建造費)百圓(水產加工設備費)△勿來町漁業共同組合百圓(水產加工設備費)△豐間村漁業組合百圓(水產加工設備費)

巡査採用試驗

昨日平署に十四名

本縣の巡査採用試驗は昨十五日、縣下各署毎に行はれたが平署扱ひの受驗者は十四名であつた、近く第二次試驗が行はれる筈

小林上等兵戰死

湯本町傾城兩角部隊上等兵小林正君は二月中生死不明になつたが三月二十八日戰死と判明、此程原隊から發表された

同君は入山坑務所の模範獨身坑夫、家庭は父東孝さん(五五)母アキさん(四八)兄孝さん(二八)の外姉、弟妹がある

愛馬鍛錬に簡易鞍

地方に斯道奬勵の爲 日本競馬會から寄附

『いざ鎌倉』の場合に備へて軍用候補馬の鍛錬熱は最近愈々高まり平、飯野、內郷の一市二ケ村で一班を結成昨報の如く青沼市長を班長としての陣容を整へた外現在郡下には左の各町村に夫々鍛練班が生れ着々事業を進めてゐるが日本競馬會では今後一層斯道奬勵のためにと此程石城產馬畜產組合を通じて鍛練用簡易鞍五十三組を無料給與して來たので近く夫々送る筈である

割當は平七組・高久四組外各三組である

平(飯野、內郷を含む)山田 入遠野 磐崎 大野 澤渡 三阪 勿來 川部 高久 赤井 川前 渡邊 上遠野 鹿島 草野 田人 外三村

晴の檢閲當日

四消防組に金馬簾

來十九日磐中校庭で

平署管內の消防組を動員した春の聯合檢閲は愈よ十九日午前八時から既報順序によつて磐城中學校庭に擧行されるが、この日晴の金馬簾を授與される消防組とその事績左の如し

△神谷二條(貯水池新設擴張、道路工事、毒草芟除)△以下一條永戶(小學校改築材料搬出、校庭擴張)△小名濱(消防屯所建設鐵骨火見櫓新設下水滯渠修築、寺院境內の改修美化)△窪輪(傳染病隔離舍建設、道路改修)

物故組員慰靈祭

綠川佐伯、高田甯一郎、堀滿正、綠川清造(以上平)野木廣吉(磐崎)の殉職消組員の慰靈祭は檢閲に引續いて同日午後一時から同校庭で執行される、順序左の如し

發式の辭 修祓 招魂行事 祭詞 祭文 玉串奉奠(祭主 遺族 官廳總代 市町村長總代 消防組員總代)昇魂行事

終つて金馬簾授與、無火災消防、永年勤續者の表彰や分列式が擧行されることになつてゐる

春と共に下る木炭

中央問屋買溜め手控へ

生產極力增加に當つてゐる地方の木炭は好景氣による生產者の轉業等から頓に品不足を來しズーッと高値を呼んでゐたが漸く需要滯季に入り先般來若干の値下りを示してゐる

それに先安を見越した東京問屋筋の買ひ溜め手控へから地方の品不足も幾分緩和されてゐ、各地方とも若干の値下りを辿つてゐるやうである

ここ許お台所は一と息入れたかたちであるが一方當三郡木炭同業組合では既報の如く『產業報國』を目標として管內當業者に呼びかけ

納稅組合表彰式

あす市會議事堂で

自治制發布五十週年を記念しての平市優良納稅組合並勤續者の表彰式は明十七日午後一時から市會議事堂に擧行するが被表彰左の如し尚十二年度の新設組合は二十三組である

中學校 五丁目中 長橋第一 北目 紺屋町五二 松崎 二町目庚戌 鎌田南町 南町四 研古 鍛冶町 古鍛冶 役所詰員 平機關區 田町 甲寅 新川町上 田町西部 家光會 四丁目下 南町三 鎌田町第三 南町一 立町第一 立町第二 久保町 搔槌小路乙 磐城高女 白銀 古三 研町第二區一 仲間町 新川町 一町目川岸 仲田町 丸イ組合 郵便局員 胡摩澤第一 磐城炭礦職員 紺屋町 鎌田町東部 鎌田町東一 杉胡組合 平第二校職員 有隣組合 十五町目 昭和組 平檢車區 七町目 長橋町東部 第三小學職員 七軒町 大和組合 丙子組合 十六區南 第四組 四左右門內組 酢釜組 大室組 中甌忠馬塚 第一組合 桂進 細目横枕 高儘 榮進會 共扶會 三丁目中央 第一校職員 裁判所員 紺屋町一 紺屋町六 刑務所員 三丁目第三 甲子組 四丁目 五丁目 紺屋町第三 平稅務署職員 二町目二 二丁目三 三田組 三町目一四 二丁目南裏 平商業學校 二町目寶成堂の前 月見組合 戊辰組合 長橋町第二 日立變電所 平第十六區第五 城山一 六美組合 平稅務出張所員 平營林署 平局工務 平土木監督所 農工組合 大町 七十七組合 片倉組合 甲子第二 三什組 御殿組 第四小學校職員 屋越山土內 横山 八木內 兄弟組 八田組

△五年以上勤續者=甲寅組合管理者(島田藤吉)磐城高女組合(正木貞二郎)鎌田町東部組合(高木保次郎)榮進會組合(水野壽雄)

△十年以上勤續者=田町組合(管理者岩本重雄)四町目下組組合(小野宗治)搔槌小路乙組組合(松本源吾)第一組合(矢吹亀作)

△十五年以上勤續者=二町目庚戌組合(山崎孝之助)

觀光協會で兒童文募集

日本觀光聯盟では十八日より小學五、六年の兒童より左記題名の作文を募集、字數は六百字以內入賞者には觀光局長より一等一名、二等二名・三等十名にメダル、賞狀授與、締切りは五月十日

(題名)國土愛護 公德强調 心身鍛錬 例へば 一、公德を守りませう・一、社頭の淸掃 一、旅と健康

平市外各町村に愛の法律＝宣傳

あすから少年保護記念日

明十七、八兩日の少年保護記念日に當り地方でも平自營會等が中心となり昨年通り平市をはじめ町村役場、各炭礦等にポスター、チラシを配り大に趣旨の强調に努めると

少年を保護する精神が中心となつてゐる少年法は大正十一年四月十七日に公布され十二年一月一日から實施されたもので『愛の法律』と稱せられる、時局下少年少女を强く正しく育てるためにこの記念日に當り全國的に少年保護善導の種々の催しをする

十一棟燒く

小野新町の大火

今十六日午前九時半頃田村郡小野新町驛前新炭商大越萬次郎氏方から發火折からの烈風に煽られて住家六棟、非住家五棟を燒き十一時鎭火丸通運送店の倉庫內保管中の葉煙草十七萬圓も燒けたと、原因取調中、損害二十五萬圓に上る見込み(類燒者)先崎銀重根本榮次郎、中村製板所後藤八一、本間勇治

傷害。 湯本町天神炭礦坑夫林村英二(二四)は去る十日同僚淸野勇次(三一)と呑んだ揚句喧嘩、下駄で淸野の頭を毆つて要一週間の傷害を負はせ平署へ

球界の春開く(あす磐中で二試合)

磐陽野球協會主催東朝平通信部後援で明十七日正午から高月對平鐵、二時半平鐵對水鐵の二試合を何れも磐中球場に擧行するが水鐵は平鐵は都市對抗戰を目指してゐる强豪チームだけに熱戰を豫想される

花柳師匠舞踊大會へ

平藝妓屋組合『踊りの師匠』花柳德三郎氏は今十六日東京日比谷で催された東京市主催の舞踊大會に招かれ長唄『大原女』をあざやかに踊つた

。。。。。**青年團服新調** 市內胡摩澤青年團では近く團服を新調することゝなり同區藝妓屋組合がこれに援助して區內から應分の寄附を仰ぐべく花澤區長らが昨十五日平署で寄附金募集の手續きをとつた

仙礦局の分室

愈よ湯本町に設置決定

所謂燃料國策の高唱されてゐる今日、生產能率の向上と災害防止其他の指導督勵を目的とする仙臺鑛山監督局の分局を縣下では平、湯本の何れかに設置さるる豫定の旨既報の通りであるが此程愈々湯本町に設置し來る九月から事務を開始する事に決定之れが開設は炭都平市の將來にも何等か寄與する處あるものと觀られてゐる

獻金 市內長橋町松本キンさんは研町箱製造酒井靖夫方に弟子を世話、謝禮として金十圓を出されて拒んだが『それでも』と云ふのでこれを折半恤兵部と戰地の義弟に送つた

松崎翁葬儀

昨報、九十八才の高齡で逝去した市內中平窪市議松崎松治氏嚴父丑松翁の葬儀は二十一日午後二時自宅で執行する

尚松崎氏は嚴父の死去に際し左の如く寄附

小學校基本財產へ百圓 消防組第四部へ三十圓 中平窪青年團へ二十圓

。。。。。**山崎驛長出張** 山崎平驛長は昨十五日開かれた水運管內の通信事務協議會へ出席

お披露め

久本から『久松』が出現、芳紀まさに十六歲と時漸く晩春、落花情あり流水また意無からんやと云つた風情、御ひいきを乞ふと爾云ふ

陣中を聽く

……………(132)……………

第一線にも慣れて 彈丸音も感じない

市內田町出身 大竹庫君(通信)

昨夜あれだけ賑はした敵の夜襲など何處にゐつたかと思はれる樣な靜かな朝です。當地は初夏、太陽が赫々と光を投げてゐます。百花が綠爛誠に心地よいところ、戰場には勿体ない樣な氣がします。カメ風呂にてもゆつくり沿して久しい間の戰塵でも落し、又爽快な氣分で銃を肩に敗殘兵掃蕩に出かけやうと思つてゐます。三月二十四日から引續いての戰鬪に度胸がすつかり固まり、彈丸音など蚊の啼く程にも感じなくなりました。夜襲は安眠を害す事が一番厄介です。小癪な奴等です、出動每に敵の根據地を燒き拂ひ序に附近部落に○○するのは全く痛快なもの、內地では萬金を積んでも見られぬ光景です。水はクリーク、食べ物は雞に豚、チャンチウが豐富で幸です。第一線に出て漸く一人前の軍人になり喜んで居ります。今度こそ本當の生きたお土產話か出來ました當分○○を續ける豫定です

櫻の平を懷ふ

市內下平窪出身 長瀨良一君

留守中は一方ならぬ御配慮に預り其上慰問品を澤山頂戴いたしましたとの事で誠に恐れ入ります(中略)目下○○警備中、周圍には未だ殘敵が現れ掃蕩中であります。後方は報道の如く治安維持されて着々と復興致して居ります。前途なほ遼遠なれど不日東亞の天地に平和の光を迎へる事が出來ませう。

氣候には惠まれ仕合せであります、不便な事は此上もありません、常に惱まされ閉口であります。一面草の花を見ては地方の樣子が浮び出ます。御地は櫻花の節とて躍進都市發展の事でありませう 四月一日

十七日(小名濱測候所發表)滿潮 前四、五五 後六、四〇 干潮 前〇、一五 後〇、一五

十八日 滿潮 前五、二五 後七、二〇 干潮 前〇、〇〇 後〇、五〇

舊三月十七日 日曜 新四月十七日 己卯 先勝 閉 昴宿

▲一白 義理人情を無視し衆人から排せせらるべし▲二黑 一つのしつさくは共から共と暗影きやうな及すべし▲三碧 昇盛の氣運に惠まれ爲す所大に發展を見る▲四綠 堅實を旨とすれば活氣横溢して功なたてべし▲五黃 左右より攻擊せらるゝ如き日しん重なるが吉▲六白 心の動搖は事業上にも波らんを卷き起すべし▲七赤 苦言は身を修むる藥と受入て萬事を誤れ▲八白 奮發心なうしない意志ふ動してしつ敗に歸する日▲九紫 人のため才智おほはれて實力を發揮しがたし

舊三月十八日 月曜 新四月十八日 庚辰 友引 建 畢宿

▲一白 思惑外れ物事意の如くならざる日投資も凶▲二黑 野心を起さず迎々たりとも本業を守るべし▲三碧 一こくでは世の中は通れぬ日穩順なるがよし▲四綠 どん底は過ぎたりとも尙ほ隱忍し居るべき日▲五黃 當業以外の事に手を出さず成を守るべき日▲六白 多少障がいありともたゆまざれば思ふ所に達す▲七赤 口舌さへつゝしめば何事も結たいなく上首尾の日▲八白 氣を開くわつに家內一致して働くべし飲食注意▲九紫 地の理人の和を得たる日相談ごと皆調ふべし

四月十八日縣社子鍬倉神社御祭禮ニ付臨時休業仕リ候

平銀行組合

六櫻社技師 長濱慶三先生實地指導

春の大撮影會と講演會

四月十七日(日曜)午後一時ヨリ平市公園 午後四時ヨリマルトモホール

會費無料 全カメラマンの參加大歡迎

優秀作品 密書引伸各部十名宛入賞

主催 磐城寫友會 (事務所 平二丁目西村屋方)

會場整理の都合上入場券事務所宛申込まれ度し

おみやげには 見不知羊羹(柿羊羹) 潮の華

電話 六六八 平五 泉屋

玉屋ノ眼鏡

吉田眼科醫院

◇銃後の守り◇

愛國預金

株式會社 常陽銀行平支店 電話 一三〇 六四三

特色 當行は本預金の金額を以て新規に愛國公債を買入れます 從つて預金者各位は個々に愛國公債を御持ちになつたと同樣であります

規定のあらまし

一、御預け金は愛國特別當座預金通帳を以て何時でも出入自由であります

一、御預け入れは十圓以上何程でも御隨意

一、利率は日步計算にて特別當座預金と同一取扱であります

◎本預金にて公債御買入御希望の方には何時にても當行より御頒ち致します

代理店 魁文堂

雲州神國印ソロバン 優勝印高級ソロバン ニコ〳〵印高級ソロバン ドンコ帳簿・ライカ帳簿 ウエル萬年筆 ライトインキ ムツソリイニペン ゼネラル、カーボン紙

父丑松儀病氣療養中の處十四日午前五時九十八歲を以て死去仕候間此段御通知申上候

追て告別式は二十一日午後二時自宅に於て相營み可仕候

昭和十三年四月十六日

平市大字中平窪

嗣子 松崎松治
男 松崎忠吾
男 松崎了四郎
親戚總代 木田源三郎
友人總代 青沼鉾太郎
總代 木村淸治